



郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2025年12月1日

12月号

校長 安倍 武雄

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

全国学力学習状況調査から

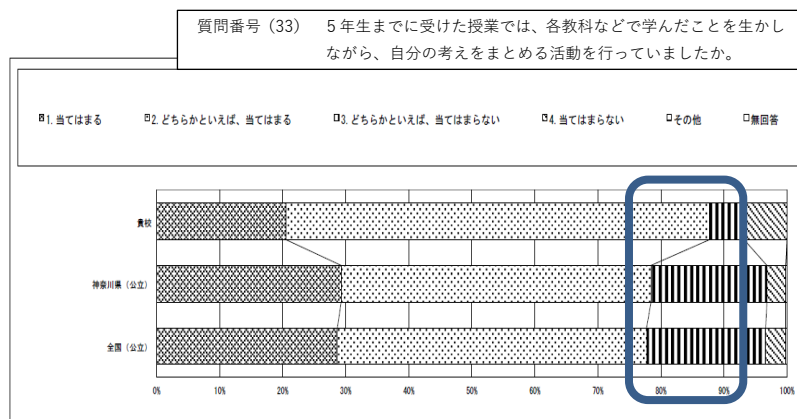
全国学力学習状況調査は、毎年4月に6年生を対象に実施され、7月末に結果が公表されました。浜之郷小学校の特徴的な部分を検討した結果については別刷りの文書をクラスルームにて配信いたしますのでぜひ丁寧にご覧いただきたいのですが、ここでは、トピック的にいくつかの結果をお伝えしたいと思います。

学校としてうれしかったのは、「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。」という調査項目です。グラフをご覧になっていただければわかるように、全国や県と比較して10%ほど高い数字になっています。

日頃教室を回っていると「今日学んだこと」などのお題で授業のふりかえりを文章で表す活動をよく見ます。これにはとても大事な側面が二つあります。一つは、新しく身に付けた知識や技能を使って新しい考えを生み出すということです。信長、秀吉、家康の個々の学習をしたあと、「三者を比較する」という学習をすることが多いのですが、これがまさにこの項目に当てはまります。信長は…、秀吉は…という個々のバラバラな知識をいくら積み重ねても意味がありません。3人を比較することによって、個々の知識が結び付いて「ばらばらだった権力が次第に一つのところに集まり、家康の江戸幕府が政治の中心になった」という高次の概念に変容していきます。これが大事です。もう一つは、「言葉にすることによってイメージを思考に変える」という働きです。もやもやとした臆げなわかり方はよくあることです。しかしそれを交流して共有することは難しいです。昔々、長嶋茂雄は、カーブの打ち方を「ボールがキューッとくるだろ。そしてググッとなったらウンッと溜めてパッ。」と表現したそうです。これでは、わかる人には刺さる表現ですが、一般人には何のことやらさっぱりわかりません。思考とは、イメージを言葉にすることによって他ならないのです。同様に、「今日学んだことを…」は理にかなった学習の方法だということになります。

また、大幅に改善されたものの一つに、朝食の摂食率があります。これは、保護者の皆様のおかげです。ありがとうございます。

調査結果は終わりではなくそれが始まりです。さらに、それぞれのご家庭で「できること」に取り組んでいただくとともに、家庭と学校が手を携えながら子どもたちの幸せな成長のために共に心を尽くしてまいりましょう。



10月25日(土)に、推進協主催の「郷の子フェスティバル」が開催されました。秋らしい天気の中、事前に申し込みをしていた子どもたちが参加をしました。体育館での開会式に続き、鶴嶺中学校の吹奏楽部が演奏をしてくれました。3年生が引退し、1・2年生の演奏ですが、なかなかどうしてこれまでの練習が生きた迫力のある演奏でした。後半は地域のダンスを習っている子たちの発表とダンスレッスン体験でした。みんな楽しそうに体を動かしていました。推進協をはじめ、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。